

会社概要 (2008年3月31日現在)

商号	栗田工業株式会社 (Kurita Water Industries Ltd.)
本社所在地	東京都新宿区西新宿三丁目4番7号
設立年月日	1949年7月13日
資本金	134億5,075万円
従業員数	1,453名 (連結4,249名)
ホームページアドレス	http://www.kurita.co.jp/
お問合せ先	経営企画室 企画部 広報課 TEL.03-3347-3250

株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	6月
利益配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日 (中間配当を行う場合)	9月30日
基準日	3月31日 そのほか臨時に必要があるときには、 あらかじめ公告いたします。
公告掲載新聞	日本経済新聞
株主名簿管理人	中央三井信託銀行株式会社 東京都港区芝三丁目33番1号
同事務取扱所	中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 (証券代行事務センター) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL. 0120-78-2031 (フリーダイヤル) (受付時間：平日9:00～17:00)
同取次所	中央三井信託銀行株式会社／全国各支店 日本証券代行株式会社／本店および全国各支店
諸手続き	住所変更、名義書換請求、単元未満株式買取請求、 配当金振込指定等に必要の各種手続用紙の ご請求は、中央三井信託銀行のフリーダイヤル、 またはホームページで24時間受け付けています。

フリーダイヤル

0120-87-2031 (自動音声案内)

ホームページ・アドレス

http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

保管振替制度を利用されている株主様は、お取引証券会社を通じてお申出ください。



KURITA

ク リ タ

株 主 通 信

2008.4.1 ▶ 2008.6.30

2009年3月期 第1四半期



栗田工業株式会社

証券コード：6370

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
2009年3月期の第1四半期(2008年4月1日~2008年6月30日)の事業概況について、
ご報告申し上げます。

2009年3月期 第1四半期の業績について

当第1四半期における連結業績は、受注高が54,369百万円(前年同期比0.5%減)、売上高が41,093百万円(同1.4%増)となりました。利益につきましては、営業利益が4,840百万円(同3.0%増)、四半期純利益は2,872百万円(同1.2%減)となりました。

これを事業別に見ますと、水処理薬品事業では、前年同期に比べて鉄鋼、石油、紙・パルプといった産業向けの受注高・売上高が増加し、海外事業も堅調に推移しました。

水処理装置事業の受注高は、鉄鋼分野において大型案件の受注があったものの、電子産業分野では国内外とも前年同期ほどの設備投資が見られなかったため、減少となりました。一方、売上高は、超純水製造装置が減少したものの、超純水供給事業や精密洗浄事業が順調に伸長したことで前年同期並みとなりました。

当期の取り組みについて

当社グループでは、2006年4月からスタートした3か年の中期経営計画「G-8(Growth2008)」で掲げた重点施策「サービス事業へのシフトの加速」「グローバル事業の拡大」などの取り組みにより、高い収益力を伴った成長を目指しています。「G-8」計画の最終年度にあたる当期は、特に、半導体や液晶分野のお客様から

の強いニーズを背景に急速に成長している「超純水供給事業」などに対して、積極的な設備投資を継続してまいります。

また、水の有効利用や環境負荷低減といったお客様が抱えるさまざまな課題に対して、排水の回収・再利用など当社グループの技術的優位性を活かした提案を行い、お客様とともに解決していくことで、持続可能な社会の実現に貢献していきたいと考えています。

株主・投資家、ステークホルダーの皆様におかれましては、今後も当社グループに一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2008年8月



代表取締役社長 藤野 宏

2009年3月期 第1四半期連結業績のご報告

連結損益計算書 (要旨)

※参考データ (単位: 百万円)

科 目	当第1四半期	前第1四半期	前 期
	2008年4月1日～ 2008年6月30日	2007年4月1日～ 2007年6月30日	2007年4月1日～ 2008年3月31日
売上高	41,093	40,520	204,875
売上原価	27,174	26,706	138,549
売上総利益	13,919	13,813	66,325
販売費・一般管理費	9,078	9,116	35,857
営業利益	4,840	4,697	30,468
営業外収益	322	393	1,190
営業外費用	38	41	415
経常利益	5,124	5,048	31,243
特別損益	—	—	36
税金等調整前四半期 (当期) 純利益	5,124	5,048	31,279
法人税・住民税・事業税	2,066	2,064	12,644
少数株主利益	185	76	337
四半期(当期) 純利益	2,872	2,907	18,297

※金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

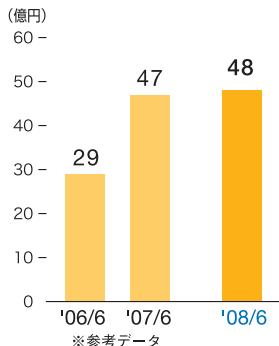
連結貸借対照表 (要旨)

※参考データ (単位: 百万円)

科 目	当第1四半期	前第1四半期	前 期
	2008年4月1日～ 2008年6月30日	2007年4月1日～ 2007年6月30日	2007年4月1日～ 2008年3月31日
資産の部			
流動資産	110,643	125,361	121,562
固定資産	111,969	107,106	109,935
資産合計	222,613	232,468	231,498
負債の部			
流動負債	38,760	61,103	49,080
固定負債	11,637	11,406	11,357
負債合計	50,398	72,509	60,437
純資産の部			
株主資本	168,606	154,487	167,924
評価・換算差額等	1,959	3,991	1,478
少数株主持分	1,648	1,480	1,658
純資産合計	172,214	159,958	171,061
負債・純資産合計	222,613	232,468	231,498

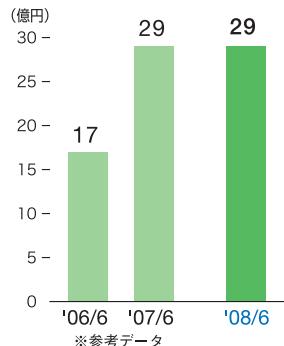
※金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

営業利益



※金額は億円未満を四捨五入して表示しています。

四半期純利益

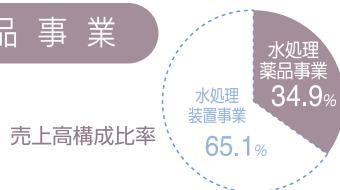


「四半期業績のご報告」における 適用初年度の対応について

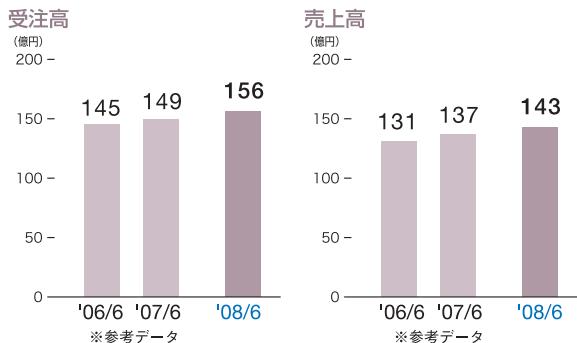
当期から金融商品取引法に基づく四半期報告制度が導入されました。適用される会計基準や用語などが、当四半期に係る財務情報と前年同期に係る財務情報との間で異なりますが、当社といたしましては株主の皆様の利便性を考慮し、株主通信においては数値の比較がしやすいよう主要な財務項目は並べて記載することといたしました。前年同期に係る数値やグラフは参考データとしてご確認ください。

セグメント情報

水処理薬品事業



受注高・売上高につきましては、国内では、主力商品のボイラ薬品が横ばいとなりましたが、冷却水薬品はやや増加し、排水処理薬品は増加となりました。また、鉄鋼や石油精製・石油化学、紙・パルプ産業向けのプロセス薬品がお客様の生産性向上のニーズを背景に増加しました。海外でもアジアを中心に受注高・売上高が堅調に増加しました。この結果、事業全体での受注高は15,602百万円(前年同期比4.5%増)、売上高は14,338百万円(同4.6%増)、営業利益は2,269百万円となりました。



※金額は億円未満を四捨五入して表示しています。

2009年3月期連結業績予想

売上高

2,130億円

営業利益

320億円

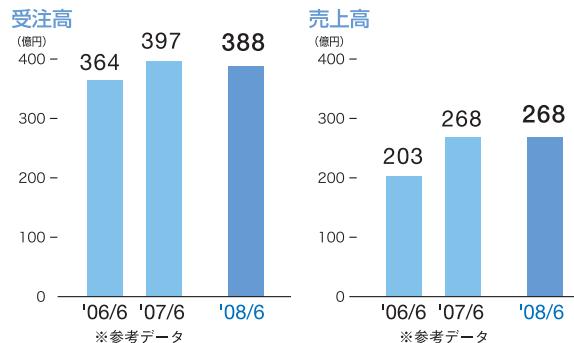
当期純利益

185億円

水処理装置事業



電子産業分野向けの受注高・売上高は、超純水供給事業や精密洗浄事業が順調に増加したものの、主力である超純水製造装置が、国内外において前年同期ほどの設備投資が見られなかったため減少となりました。一般産業向けでは、鉄鋼分野での大型案件受注などにより受注高が大幅な増加となり、売上高も増加しました。この結果、事業全体での受注高は38,767百万円(前年同期比2.4%減)、売上高は26,755百万円(同0.2%減)、営業利益は2,583百万円となりました。



※金額は億円未満を四捨五入して表示しています。

詳細は当社ホームページでご確認ください

※Yahoo! やGoogle などの検索サイトからアクセスすることができます。

栗田工業 IR

検索

(URL▶ <http://www.kurita.co.jp/> → 「株主・投資家の皆様へ」)

特集「水と歩む」は裏面に掲載しております。

電子産業向けの超純水製造技術は、水処理技術のなかでも最先端に位置するもの。

クリタは超純水製造システムのトップメーカーとして、電子産業分野の最先端デバイスの進化を支え、情報化社会の発展に大きく貢献しています。

限りなくH₂Oに近い 「超純水」

もともと水には物質を溶解する性質があるため、海水、河川の水、水道水、地下水など、私たちの身近にある水には、さまざまな物質が溶け込んでいます。これら水中に含有されている、イオン、有機物、気体、微粒子、微生物などのあらゆる不純物を極限まで除去し、限り

なくH₂O、すなわち純度100%に近い状態にした水が超純水です。つまり「ほとんど何も入っていない水」といってもよく、水中の不純物の濃度はppt（1兆分の1）単位。これは東京ドームいっぱいの水に、わずか1グラムの砂糖を溶かした程度のレベルです。

半導体の製造プロセスを 抜群の「洗浄力」でサポート

それではなぜ、これほどまでに純度の高い水が必要なのでしょう。水は、何も溶けていない状態であればあるほど溶解力が強く、何でも溶かし込みやすい性質を持ちます。

ほとんど不純物を含まない超純水は、ものを溶かし込む力が最も強い水であり、極めて高い洗浄力を持っています。この優れた超純水の特長が、細かな塵ひとつ許されない半導体や液晶などの最先端電子デバイスの洗浄工程で活かされています。

例えば、携帯電話やパソコンに使われている半導体の製造では、非常に多くの工程を経て微細な回路がつくられますが、その工程ごとにさまざまな化学物質が使用されています。次の工程に進む前に回路に付着している余分な化学物質をきれいに取り除く必要があります。その洗浄に超純水が使用されているのです。

超純水の不純物濃度



砂糖 1グラムを
東京ドームいっぱいの
水に溶かした状態



進化を支える

超純水は半導体の微細化・大容量化と歩調を合わせて、不純物を除去する開発が進められ、水の純度の向上が図られてきています。今日の半導体回路の配線の幅は0.0001mm以下。このような超微細回路の洗浄にも対応できるほど、現在の超純水は、その純度が極限まで高められているのです。

電子産業分野のさらなる技術の発展を支える水を追求

今日、半導体の技術革新は猛スピードで進み、情報機器の小型化・高機能化が進んでいます。超純水の果たす役割もさらに重要となり、より高い洗浄力が求められるなか、クリタではそれに応えるための技術開発を行っています。例えば超純水のなかにオゾン、水素、炭酸などを溶解させた「機能性洗浄水」を開発しています。これは超純水の洗浄力をさらに高めるとともに、半導体・液晶洗浄工程で使用されている薬品の一部を代替する技術です。これにより、お客様の薬品使用量低減に貢献しています。

さらに、クリタはこれらの超純水技術に加え、独自の高度分析技術の開発やメンテナンス体制の充実にも努め、社会やお客様のニーズに応えていきます。



クリタはお客様のニーズに合わせて超純水製造システムを幅広く提供しています。

半導体の製造にどうして超純水が必要なの？

